

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171600719		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム上尾原市		
所在地	埼玉県上尾市原市230-1		
自己評価作成日	平成22年11月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.fukusi-saitama.or.jp/saitama22
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-68		
訪問調査日	平成22年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家グループホームは全国に120箇所の(平成22年9/1現在)を行っております。上尾原市では、運営理念を下に、「その人らしい快適で穏やかな生活を常にサポートし、心を込めた親切なサービスに努め、地域の人々とのふれあいを大切に」事を念頭に入れ、その人らしいとは何かを考えながら、又、日々のケアに理念は生かされているのか振り返りながら、ケアに当たっています。家族様と情報を共有することにより信頼関係を築き、地域の方々と協力関係を持ちながら入居者様を第一に考えたケア・個別ケアを軸に充実した毎日を過ごして頂けるケアをさせて頂いております。ホーム敷地内には、広い本格的な畑があり、土・自然に触れ風を感じながら、季節の野菜を作り、共に収穫思、楽しく皆で、食卓を囲んでいます。今後も入居者様が笑顔で安心して過ごせるホームを目指します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は、閑静な住宅地に中にあり、裏には緑あふれる木々が季節感を感じさせてくれる場所に位置している。住宅地にありながら敷地内には広い花壇と農園があり、四季折々の花を植えていたり、野菜作りを行い、収穫を楽しみ利用者と自然のふれあいの場として大切にしている。子ども110番の登録や近隣の小中学校からの体験学習・ふれあい体験の一環としてのホーム訪問の受け入れは、利用者の子どもと接する喜びと共に、学校からの嬉しい報告もあり、地域とのつながりを大切にしたいホームとしての期待が持てる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念を、申し送り時に唱和し、スタッフの目に触れる場所に掲示、理念を意識したケアにあたっている。	理念は、全職員が覚え、ケアの実践に活かせるよう、申し送りの都度唱和している。そして、毎日確認し、意識を共有できるよう各フロアの良く見える場所に掲げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供110番の登録や近隣の保育園・小学校。中学校からの体験学習の受け入れ。地域ボランティア等の参加を通して日常的に地域の一員としてつながりを重視し、交流を図っている。自治会加入に向け話をすすめている。	地域の子どもの為に、「子ども110番」の登録場所となっている。中学校の職場体験や小学校のふれあい体験等を積極的に受け入れ、地域の人々とのふれあいの機会を作っている。	事業所の行事の際に、地域へ参加を呼びかける工夫をし、地域との交流がさらに深まることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校・中学校の体験学習の際、認知症の理解をしてもらうよう話す場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、ホームでの取り組みについて、報告や情報を交換し共有している。検討・改善事項があれば、運営に反映出来るように取り組んでいる。	定期的に運営推進会議を開催し、事業所の取り組み等についての報告や、相談をしている。そこで得た意見、提案は、検討してサービスの向上に活かせるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者とは、事故報告書の提出や行政に関する事項について常に直接相談し情報交換を行っている。ホームの取り組みについても協力関係を築くよう努力を行っている。	市の担当者とは、事務的な連絡以外にも随時相談や報告を行い、日頃から良い協力関係が築けるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定期的に勉強会を持ち、折にふれ話し合いを行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について研修を行い、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。安全を考慮し、ユニット入口の施錠はしているが、移動したい人には、対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法資料を作成、閲覧出来るように対応し、定期的に勉強会・話し合いの場を設けている。虐待が見過ごされないようスタッフと話し合いストレスが溜まっていないか留意し、防止に努めている、		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援・成年後見制度について、学ぶ機会に参加し、必要がある場合は関係者と話し合い、活用できるよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・締結・改定時共に、話し合いの場を多く取り、疑問・不安が解消するように十分な説明をし、理解・納得して頂くよう取り組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員に意見を言いやすい場を常に意識して提供し、介護相談員を月1回派遣してもらい、外部者へ意見を話せる機会を設け、運営に反映させている。	面会時に直接話を聞く以外に、月に1回、介護相談員の来訪を依頼し、家族や利用者が要望を言いやすいような機会作りに配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月数回の本社での会議、スタッフ会議、リーダー会議と意見・提案が出せる話し合いの場を設けている。会議以外でも話し合いの場を意識してとり、反映させている。	基本的に会議を、職員から意見を聞く機会としているが、月に一回個別面談も行っている。管理者は日頃から職員に声かけし、話しやすい雰囲気になるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の状況把握に努め、話し合いの場を多く取り、個々の努力を認め、やりがいをもって働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	実践者研修・管理者研修・リーダー研修・新人研修と段階に応じて、研修に参加出来る機会を確保している。法人内外の研修参加も、積極的に勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会研修への参加・他同業者との交流機会を作っている。定期的に他の施設に相互訪問し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前に、話し合いの場を多く取り、困っていることや、ニーズ等を聞き入れ、安心安全を確保する為の関係作りに努めている。その情報を元に職員同士で話し合い、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する以前に、話し合いの場を多く取り、不安・ニーズなどを理解し、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの場を多く取り、本人・家族等の情報を共有し、理解に努めている。まず必要としている支援を見極め、他の支援も対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、人生の先輩から多くの事を教えてもらい、職員で共有出来る機会がある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度、家族へ手紙を出し、利用者の様子を伝えている。面会時日々の様子をお伝えし、家族が出来る事は一緒にして頂いて、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話等を用いて、馴染みの近所の方や友人と連絡が取れるよう支援している。	地元の利用者がほとんどであり、買い物の希望がある時には、職員が同行している。馴染みの方とのつながりを大切にし、知人、友人との連絡の支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人を結ぶ線を作るようなケアを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡し本人の経過を確認し、本人・家族の思いを聞きながら相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の変化に気づき、カンファレンスなどで本人の気持ちを考える機会を持っている。	入居時に確認した希望や、日常の会話やしぐさの中から利用者の思いや意向の把握に努めている。家族との交流の中から得た情報も大切にし、できるだけ本人の希望に近づけるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前での面接はもちろん、面会に来られた家族と話し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録はもちろん、申し送り時にも口頭で詳しく伝え、情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的(一ヶ月に一回以上)ケアカンファレンスにおいて、意見を出し合い、反映させている。	介護計画は、本人の要望や家族の意見、希望等を聞き、関係者で話し合って作成している。その都度、状況に即し、できるだけ要望に沿える計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の変化を細かく捉え、ケアに反映させ、結果など記録に記入し、スタッフ間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月1回のカンファレンス以外にも、ニーズを発見した場合、迅速に対応し、スタッフで意見を出し合えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	相談員、ボランティア、小・中学生の体験学習など広く多くの方と関われるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に家族の希望で、かかりつけ医に受診できるように支援している。	原則、家族対応にて希望するかかりつけ医の受診が可能である。希望者には、2週間に1回の内科、1週間に1回の歯科往診があり、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護師に健康相談、助言を受けている。スタッフは気がついたことを共有し、伝える体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されたときは、スタッフが面会へ行き、主治医や看護師より情報を得、ホームへ持ち帰っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族、ホーム長と面談し、利用者様・家族の希望に添えるようチームで話し合い、支援に取り組んでいる。	今まで、当事業所でのターミナルケアの経験はないが、利用者、家族の希望があれば、対応は可能な状態である。重度化した時の方針については、入居時の説明以外にも、必要に応じて家族、医師、職員で話し合い、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	電話機近くにマニュアルを貼り、全スタッフがいつでも見られるようにしてある。また、他ユニットとの連携をできるようにしてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に昼・夜の設定で非難訓練を行い、入居者様にも参加していただいている。運営推進会議にも議題に出し、地域の協力が得られるよう体制を築いている。	昼、夜等いろいろな想定にて、防災訓練をしており、いつでも非難できる方法を全職員が身につけられるようにしている。隣の施設とは協力が可能な状態となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を理解し、その方に合った言葉掛けや接し方をチームで意見を出し合いながら実践している。	利用者の人格を尊重し、誇りを損ねない言葉かけの実践について会議で話し合っている。スピーチロックについては特に気をつけ、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現が出来ない方の思いを受け取れるよう、日々のケアを実践し、チームで話し合う機会を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	慌てさせたり、せかしたりする事の無いよう、ご本人のペースを尊重し、ケアにあたっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれを楽しむ気持ちを忘れてしまわないよう、コーディネートや声掛けの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人が好む環境作りを目指し、チームで話し合っている。残存能力を生かした介助を心がけている。	テーブル拭きや、片づけ等は、希望、能力に応じて利用者が職員と一緒にしている。食事の楽しみの一つになるよう寿司の出前の日を設けたり、おやつを手作りする機会を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の時間に、とらわれることなく一日のトータルした栄養・水分量をチームで考え、実践している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力を理解し、介助の仕方、また理解できない方への声掛けのアイデアをチームで話し合い、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員で排泄リズムを把握して、誘導時、配慮ある声掛け、介助を心がけ支援している。	排泄の支援を行う時は、他の利用者に気付かれないよう配慮しながら声かけしている。個別の排泄パターンを把握して支援を継続し、トイレでの排泄が可能になった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の為の習慣がある方へ、水分量を増やしたり、散歩などを取り入れ、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調には十分注意してから、入浴の支援を行っている。また、ご本人の意思を尊重しながらタイミングをみて声掛け、支援している。	9時30分～16時位の時間帯で、週3日は必ず入浴することになっている。利用者の希望があれば、回数を増やすことも可能であり、入浴が楽しみなものになるよう、希望者には入浴剤も使っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を尊重し、援助している。又判断出来ない方には、体調など観察・把握しながら、良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬をチェックし、誤薬の防止(服薬前に二人以上で薬のチェック)に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から趣味が把握できる方にはそのまま支援を、出来ない方にもスタッフが一諸に楽しみながら探したり、生活に張り合いがもてるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ・カラオケ等みんなで楽しめる外出の支援と、一人一人の能力に合わせて外出できるような支援を行っている。	基本的に週4回、30分位の近所への散歩を、そして、月1回は別の場所へ外出することになっている。希望があれば、随時外出支援が可能であり、できるだけ利用者の希望に合わせて外出を楽しめるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の意思を尊重し、家族に理解を得られるよう関わり支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より希望が出しやすいような関わりを心がけ、気持ちに添えるような支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔であることを第一に心がけ、明るい印象になるよう共同空間のディスプレイを考えている。	清潔感にあふれ、明るい空間となるよう配慮されている。壁面に飾られた子どもや動物の写真が、家庭的な雰囲気を醸し出しており、窓から見える畑の花や野菜からは、季節を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人気に入った席を心がけ、過ごされたり、ご利用者同士で談話が出来るような関わりを心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望を尊重しながら、転倒のないよう工夫している。	その人らしい暮らし方を尊重し、それを継続できるよう、居室へは、冷蔵庫、仏壇、テレビ等馴染みのものを持ち込み可能であり、居心地良く生活できるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・共同スペースに手すりを設置してある他、必要な方へ居室にも手すりを設置し、少ない介助でプライベートな空間を提供している。		